



## 全教女性部ポテッカーを貼り出し 職場づくり、仲間づくりをすすめよう!

4月14,15日に開催された女性部総会では、女性部活動の原点を大切にしたりくみをすすめることを方針として提起しました。その第1歩として、「職場づくり、仲間づくりをすすめる全教女性部ポテッカーを全分会の掲示板に貼り出す」ことが確認されました。全教女性部ポテッカーについては、いきいきニュース 267号でもお知らせしたとおり、全国から応募していただいた46作品の中から選ばれた標語をもとに作成しました。「どうしてる? その一言が 職場を救う」「手をつなぎ あなたも笑顔で 組合に」「ちょっとした 痛み・異常も すぐ検診」いずれも、現在の職場の状況を踏まえて、仲間とのつながりの大切さを提起しています。

2010年度の教職員の病気休職者数は8660人と過去最高になっています。うち精神疾患は、5407人と5年連続で病気休職者の60%を超えています。また、2010年度の新採教員では91人が精神疾患で退職しています。こうした教職員の困難な状況のおもとには、教育基本法の改悪に象徴される新自由主義的「教育改革」の中で管理と競争の教育が押し進められ、教職員への管理統制が強まったことがあります。また、貧困と格差の広がりなど複雑な社会状況におかれている子どもたちへのていねいな対応のためには、決定的に人員が不足していることもあげられます。「このままでは、いつだれが倒れてもおかしくない」「若い仲間がいきいきと働ける職場にしてほしい」「人員を増やし一人ひとりの子どもを大切にする教育をおすすめしたい」こうした職場の声を生かした運動をすすめていくことが求められています。

職場にポテッカーを貼り出すことから、まず一步をすすめてみましょう。そして、職場からの反応があったら、ぜひ全教女性部にその声をお寄せください。



全教書記局に貼り出したポテッカー



ポテッカーの原案を考えた皆さん（出席していない方は、組織の代表者が代理）に総会1日目の夕食交流会で、ささやかなプレゼントを差し上げました。

## 原発ゼロティッシュと横断幕で 原発ゼロの声を広げよう



1月の女性部委員会以後、原発ゼロ缶バッチの普及にご協力いただき、ありがとうございました。全教女性部全体で、5000個の缶バッチを広げることができました。今年度は、その原発ゼロ缶バッチのデザインを生かして、原発ゼロティッシュを50,000個作成し、希望組織にプレゼントしました。ぜひ各地の宣伝行動で、原発の再稼働を許さず、原発ゼロをめざす宣伝行動に役立ててください。



いいません！保育を産業化する子ども・子育て新システム

# みんなの保育フェスティバル

「税と社会保障の一体改革」の名のもとに、消費税増税と社会保障の大改悪が押し進められようとしています。現在国会では、関連の7法案が一括審議されようとしています。中でも子どもと教育に大きくかかわってくるのが、「子ども子育て新システム」関連3法案です。「子ども子育て新システム」は待機児解消を口実に、児童福祉法を改悪し、保育・幼児教育を産業化するものです。子どもたちの育ちを保障する保育、幼児教育の公的責任を投げ出し、保育・教育内容を細切れにして、親の自己責任にしようとしています。こうした中、5月13日、「子ども子育て新システム」を許さず、公的保育・幼児教育を守り拡充するために、「みんなの保育フェスティバル」が開催されました。快晴の明治公園に、たくさんの親子連れを含む6,000人が集まりました。全教女性部からは、常任委員、都教組、埼教組などから11人が参加しました。

午前中は、各団体のブース企画とステージ企画が並行して行われるプログラムで、あちこちから遊びや工作、ダンスに興じる子どもたちの歓声が聞こえる明るい集会となりました。全教は、子どもの権利条約と就学前の教育予算についてのパネル展示をブースで行いました。ブースでは、女性部の奮闘で、用意した子ども全国センター発行の『子どもの権利リーフ』が、あっという間になくなり、また、概算要求期に向けて文科省に提出する「えがお署名」



フェスティバルに参加した全教のメンバーです！



全教のブースには、署名に協力してくれる人が次々と訪れました

にとりくみ220筆を集めることができました。ステージ企画では、全教幼稚園部部長の岩瀬さんが「子ども・子育て新システムの最大の目的は、保育の市場化であり、学校教育への企業参入です。幼稚園と保育園を一つにまとめた『総合こども園法』が施行されれば利益を追求するあまり、幼児の処遇の悪化につながるおそれがあります。大阪府堺市ですすむ民間保育園と公立幼稚園の『幼保一体化』では、学期の途中で民間保育園が撤退してしまいました。企業が参入すると同様のことが起こるかもしれません」と発言し、幼稚園教育の立場から「子ども・子育て新システム」を批判しました。

**国会での審議が進む中、運動を急速に盛り上げていくことが求められています。今とりくんでいる「保育を産業化する「子ども・子育て新システム」は撤回し安心して保育・子育てができる制度の実現を求める請願」署名を職場から集め、各組織から全教へ送ってください。**

## お願い

毎年発行している権利一覧を今年も7月初旬完成をめざして作成します。秋の確定闘争には、欠かせない資料となります。まだ変更箇所をお知らせいただいていない組織は、遅くとも5月中に全教女性部までお知らせください。

昨年度の権利一覧に赤を入れて郵送していただくか、メール、FAXなどで訂正箇所をお知らせいただくのでもかまいません。また、訂正箇所がない場合もその旨をお知らせください。

よりよい資料作成のためにご協力をよろしくお願いいたします。